シリーズ 空き家探訪記

5軒に1軒が空き家といわれる生野区。戦時中、空襲の被害が少なかった生野区は、今でも戦前の家屋が数多く残っている地域です。風変わりな間取りや、増改築の跡、美しい建具等々、一軒一軒異なる個性をもつそれらの物件には、現代の建売住宅にはない魅力があります。「シリーズ・空き家探訪記」では、様々な人と生野の空き家との出会いを取り上げ、それぞれの暮らしと間取りを重ね、理想の住まいを思い描きます。

第7回

大阪市立デザイン教育研究所

メンバー： 木曽峻、ショウ英美、高砂有希奈、中井瑠璃

この幸陽荘は、OMCD 高等専門学校の学生達が暮らす学生寮。
日々1流のデザイナーを目指して勉強している学生たちがいます。
学生たちのおもしろおかしい日常風景をのぞいてみませんか?

階段で待ち構える!?不定期活動!『おかえり戦隊*トオセンジャー』
朝に強いヤツら VS 朝に弱いヤツら
貴方も入寮しませんか?部屋紹介

＼ここがイチオシ！／

物件

・2階にバルコニーがある
今までにはない、新しい学生寮
・幻の3階を浴場に！
学生生活を謳歌

大人数が住めるような
沢山の小部屋 + 共同で使える水回り
商店街やコンビニのアクセスが便利

×

改装された幸陽荘を舞台とした
読んでいてワクワクするストーリー

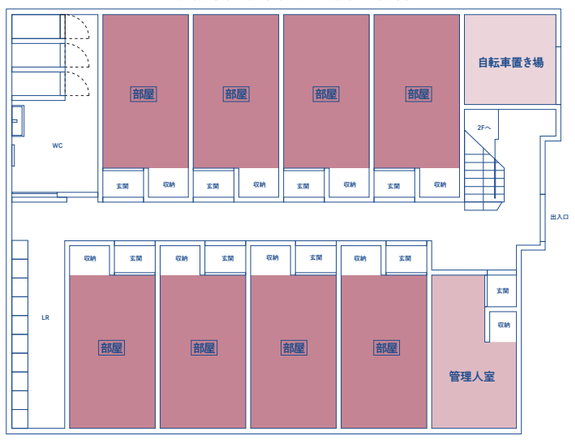
↓

学生寮「幸陽荘」で繰り広げられる
OMSD(大阪市立デザイン高等専門学校) 華の学園物語 !!

桃谷に位置する幸陽荘。港区に住んでいる孫の建物。
幸陽荘の”幸”はおばあさんの名前からとっているそうです。

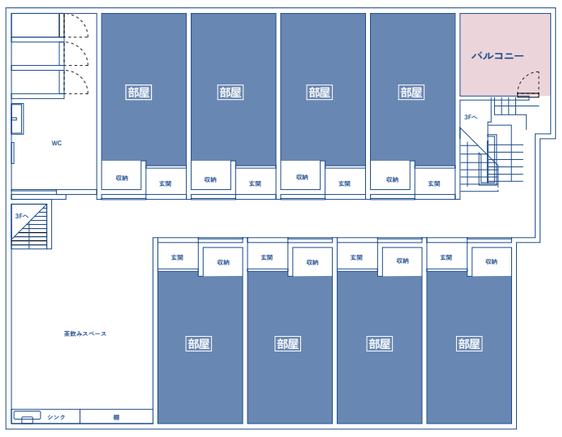
1階 女子寮

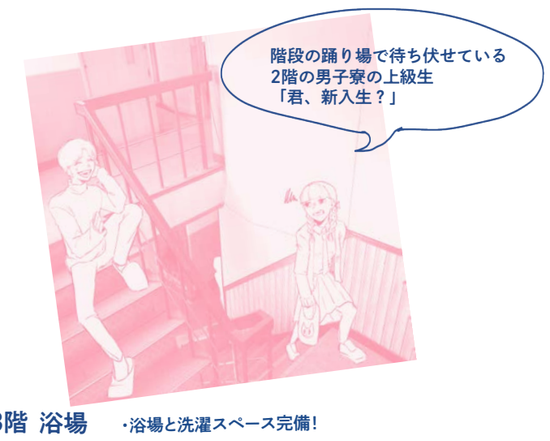
・ロッカースペースがあり、部活の荷物も収納可能!
・自転車置き場もあり、通学に便利!



2階 男子寮

・茶飲みスペースやバルコニーなどの共有スペース!

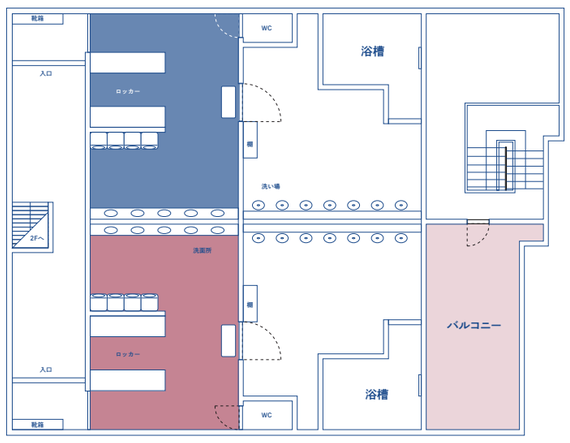




＼わっちゃ～／

3階 浴場

・浴場と洗濯スペース完備!



生野から世界へ～平井木工挽物所 × やさしい日本語～

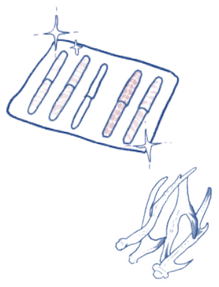
生野ものづくり百景でも紹介された、万年筆をつくっている平井木工挽物所さんを知っていますか？取材をさせてもらい、実際に聞いた話をまとめました。平井木工さんは今、海外へ向けた活動をしているとのことなので、今回は外国人の方でも読みやすいやさしい日本語をつかって、平井木工挽物所さんをご紹介したいと思います。

●平井木工挽物所さんってこんなところ

生野区北巽駅から歩いて5分。とある道を入ったところに、平井木工挽物所さんはあります。挽物所とは、機械を使いながら木を加工してさまざまな製品をつくり出す場所のことです。ちいさな挽物所で、木工職人の平井守さんと2人の息子さんでお仕事をされています。平井守さんは弟子入りでこの世界に進み、今ではこの道五十年にもなるベテランです。

●平井木工挽物所さんの万年筆

平井木工挽物所さんの万年筆は、どんな風につくっていて、どんな特徴があるのでしょうか。お話を聞いてみました。まず、平井木工さんでは昔ながらのつくり方であるろくろというものをつかって万年筆の木の部分を削っています。木を売っているお店からさまざまな種類の木を頼んで、世界にひとつだけの万年筆をつくります。その中にはヤクスギやブライヤー、鹿のツノなどもあるそうです。選ぶ抜かれた一本の木が轆轤によって削り出され、木の持つ模様や年輪が綺麗に万年筆に写り、美しさを引き立たせます。私たちも取材に行った時、削る作業を体験させていただきましたが、ひとつのちいさな木を削るだけでもたくさんの集中力や技術力が必要だということが分かり、改めて職人技のすばらしさを感じました。



平井木工挽物所
大阪府大阪市生野区巽北 3-1-24
TEL:06-6752-3875
HP:http://hirai-woodturner.com

●挽物でペンを作るようになったきっかけ

平井さんは元々傘の持ち手を作る仕事を引き受けていましたが作業中の事故で指を切る大ケガをしてしまいました。ですが、その事故がきっかけで傘の持ち手を作るのをやめて、自分にしか出来ない挽物の木製のペンを作るようになるのです。平井さんは「他の人と同じことをしているだけでは自分の良さをアピールできない。自分にしか出来ないオリジナルの物を作ることがアピールになってだんだん評価されるようになった。引き受けた仕事だけでは、ただ言われたことをするだけでストレスだったが今は自分で考えたり試したりしてペンを作ることが、大変だけどそれ以上に楽しい」と話していました。

●生野区から世界へ

平井木工製作所さんは地域の商店街や百貨店のイベントにも出店していて、実際にペンを手に取った方からもSNSで絶賛されています。最近は海外の博覧会や展覧会にも参加していて高い評価をもらっているそうです。平井さんは「海外の展覧会で英語は話せないけれど相手が日本語を理解してくれようとしているので話が通じて会話が弾む」と話していました。取材をしたわたしたちも実際にペンを手に取って、平井さんのこだわりを感じ、この万年筆が世界中で広まって欲しいと心から感じました。平井木工さん、ありがとうございました！

生野区。ものづくりを生業とする。「革友禅を扱う店主　竹口昌昭」

独自の技術「革友禅」で素敵な作品を幾つも作っている自分屋の店主・竹口昌昭さん。自分屋を営んで行く中でものづくりに対して抱いている想いや、大切なことは何か。ものづくりを始めてまだ数年しか経っていないとは思えない芯のある考え方についてお聞きしました。

ものづくりは考えるより直感的に
竹口さんはいつからものづくりをなさっているんですか？

実際にものづくりをしはじめたのは数年前から、それまでは営業の仕事をさせてもらってました。

竹口さんがものづくりをする上で心がけていることなどはありますか？

頭の中で考えないこと、何か思いついたらその形に脚色せずに手を動かして紙なんかに描き起こす。ものづくりをする人でよくあるのが、形にする前に頭の中でああしよう、こうしようと思って結局、やっぱり違うなと形にしないままその案を無くしてしまう。それはもったいないと思ってパッと閃いたものをそのまま形にするのは意識してます。

自分屋の商品の柄も閃きから生まれたものですか？

そうです。洗面所で手を洗っている時に、水の波紋を見ていて閃いたり、焼肉屋さんの皿の模様から閃いたりして、それをカレンダーの裏なんかにすぐ書いて、残しておく。自分屋の染めの柄はそうやって出来てます。

僕は、アイデア出しで苦労することがよくあるので参考になります。

やっぱり手を動かして数作るのが大事だと思うね。あと、私も専門学校に話をしに行く機会があったりして思うのはものよりも自分が前に出たいと思ってる人が多い気がするね。ものづくりをするなら、ものを一番に考えないと人に認められるような作品は中々できてこないと思う。

人に認められる作品を作る方法などありますか？

方法って言われると難しいけど、自分の足を運んで展覧会とかに行って自分の目で人様の作品を見たら得るものがあるんじゃないかな。ものづくりで、特に商売やろうと思ったら周りから気に入ってもらえないと作った商品を買ってもらえないから、そういった意味でも、ものを一番に考えるのが良いと思うよ。

最初に、ものづくりを始めて数年とおっしゃっていましたが、ものづくりに対する考えがすごくしっかりして筋が通っているなと思うのですが、いつ頃からその考えを持つようになられたんですか？

嬉しいね。それに関しては、自分屋を始める前にやっていた営業の頃から色々と見ていたのがよかったと思うよ。その環境を与えてくれたのも親だったので、親には本当に感謝してるよ。

竹口さん、貴重なお時間ありがとうございました。ものづくりに真摯に向き合っている職人さんの気概のようなものも感じられた気がします。自分達もこれから作品作りを頑張っていこうと思います。

やさしさ百科 ～易しくて優しい日本語～

生野区では、やさしい日本語の取り組みを広げていくにあたり協力店舗を募っており、現在その数は170店以上にまでのぼっています。

今回は協力店のうちの1つである、和カフェ「葉菜茶」さんに協力していただき「やさしい日本語」をはじめとするさまざまなエピソードをお伺いしました。

「やさしい日本語」の協力店となったきっかけ

店主のママコさんは、外国人のお客さまと接する機会が多いなか、生野区役所から「やさしい日本語」の存在について知ります。

元々保育士の仕事をしていたこともあり、英語を話すことは得意ではないけれど、難しい言葉を咀嚼し簡単な表現へとかえることであれば自分にもできるということで協力を始めたそうです。

「やさしい日本語」でつながる

やさしい日本語は、外国人のお客さまの母国語を使用するというわけではないため、コミュニケーションをとるうえでは上手くいかない場面も出てきます。

そういったときに手助けをしてくださるのが葉菜茶に来店している他のお客様。あいだに入って話を繋げてくださったり、イラストを描いて代わりに説明してくださったりと手法はさまざまですが、その場にいる人達で輪となりコミュニケーションをしていくのだそう。

こういった新たな繋がりが生まれるきっかけとなるというのも、やさしい日本語のひとつの魅力であるとママコさんは話されていました。

「葉菜茶」の生まれ

古民家をリノベーションして作られたカフェの店内にいると、あたたかく落ち着いた雰囲気に包み込まれます。古き良きを重んじる京都や奈良が好きだというママコさん。

年月を重ねていたものに新しい風を入れることでかわっていく様を楽しめるような空間を作りたいと思い、大阪で古民家カフェを営むことにしたそうです。

こうして生まれた葉菜茶には「葉菜ちゃん」という猫のキャラクターが存在しています。お店のある一本筋は「猫ロード」と呼ばれるほど猫が多く住んでいることで有名。その猫達が葉菜ちゃんのもとに遊びにくるというストーリーがこのお店にはあります。ぜひ皆さんもそのストーリーを広げながら、ここでゆっくりとした時間を過ごしてみてください。

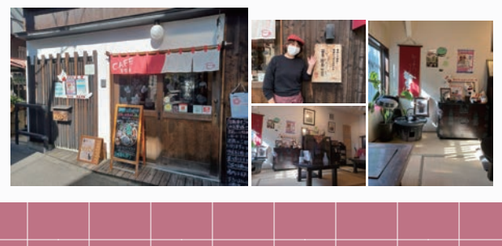
まとめ

やさしいという言葉には「優しい」と「易しい」の2つの意味がありますが、ママコさんは気持ちの「優しい」を意識しているとのこと。

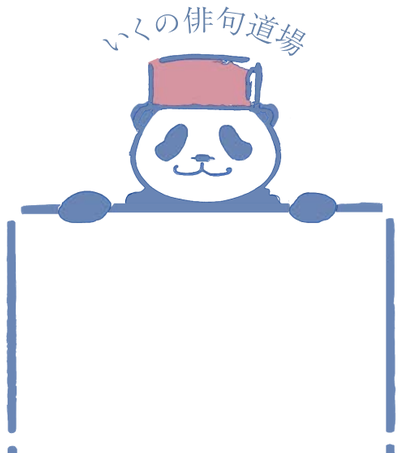
日々お客さまと関わるなかでの、ママコさんの姿勢を垣間見ることのできるインタビューとなりました。

みなさんも是非やさしい日本語を使ってみませんか？

葉菜茶　大阪市生野区桃谷１丁目6－16 JR 桃谷駅北口から歩いてすぐ
営業時間 火曜～土曜 8:00~17:00　定休日 日曜、月曜
電話番号 06-6777-5722 インスタグラム(@momodani_hanacha)



いくの俳句道場



「いくの」を題材にした句大募集!!

桃谷ロイターでは、「いくの」を題材にした俳句を募集しています。
暮らしのこと、お商売のこと、食べ物、街並み、ご近所付き合いなどなど、「いくの」にまつわることを俳句に詠んでみませんか?
季節や「いくの」を感じる作品を選ばせていただき、紙面にてご紹介いたします。メールまたはハガキにて、ペンネームを付けてご応募ください。

＜宛先＞
E-mail：momodaninoneko@gmail.com
（件名「いくの作句道場の件」）
〒544-0034 大阪市生野区桃谷 2-10-21
（桃谷ロイター実行委員会 宛）